

● Hondaの高校生交通安全教育

教育最前線

連載 42

生徒への交通安全教育を円滑に運営できるよう、高校の先生方へ向けて「指導マニュアル」を提供

福島県立福島工業高等学校では、2013年からホンダの高校生交通安全教育を取り入れている。同校生徒指導部主事の渡部浩一教諭は「生徒の9割近くが通学に自転車を利用していますが、『自分

指導マニュアルをもとに先生方が主体的に実施

高校生世代は、交通社会の一員としての責任を自覚した行動が求められ始める時期である。ホンダは生徒自身が交通安全について主体的に考え、自らが交通事故から身を守るようになるとともに、他の交通参加者への思いやりの心を身につけてほしいという考えのもと、高校生交通安全教育プログラムを2012年に開発、全国の高校に拡げてきた。そして、活動意志のある高校が自主的に運営できることをめざし、「高校生交通安全教育指導マニュアル（以下、指導マニュアル）」を完成させた。この指導マニュアル（DVD/CD）には、高校生の自転車による交通事故の防止を目的とした「感受性教育」「実技教育」といったプログラムを収録。それぞれの教育内容について映像を使って解説している。

福島県立福島工業高等学校の1年生を対象に7クラスの担任の先生方が Honda の感受性教育を実践



過信している生徒が少なくないと感じています。それが事故や交通違反につながる恐れがあるので、生徒の注意喚起を促すことを目的として、ホンダの高校生交通安全教育を実施しています」と話す。同校では先生方が主体となつて交通安全教育を継続している。それができるのは、ホンダから提供された指導マニュアルがあるからだという。9月14日には5時限目・6時限目（各50分）を使って、1年生7クラス279名を対象に交通安全の授業を行った。これに先立ち、渡部教諭は指導マニュアルを使って生徒指導部だけでなく、担任の先生方も進め方を共有した。

クラス担任を巻き込み学校全体の意識を高める

5時限目は体育館に生徒を集め、渡部教諭による座学教育。6時限目は当初「実技教育」を予定していたが、前日の雨の影響で校庭のコンディションが不良のため、各クラスに分かれての「感受性教育」となった。

「感受性教育」とは、実際に中学生・高校生が加害者となった自転車事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討議の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶものである。1年生の担任の一人、五十嵐航介教諭は6つの事故事例の中から、交差点でのクルマと自転車の出会い頭事故を題材にした。「交通安全の授業を行うのは今回が初めてですが、指導案とワークシートが用意されていたので、スムーズに授業を進めることができました。他校での事例も映像で見ることができたので、授業のイメージもつかめました」と、五十嵐教諭はいう。渡部教諭も指導マニュアルは教育のフォーマットがきちんと出来上がって

●同校の実施状況

	2013年	2014年	2015年	2016年
感受性教育			●	●
座学教育	●	●	●	●
実技教育		●	●	*

*雨天のため、感受性教育に変更



生徒指導部主事の渡部浩一教諭。感受性教育に先立って行われた座学教育を担当した

る点を評価する。「これを見て準備をすれば、教員なら誰でも効果的な交通安全教育が実践できると思います」。感受性教育を受けた生徒は「高校から自転車通学を開始しましたが、話し合いの中で友人の体験などを聞いて、自分も事故に遭う可能性があることを再確認しました。見通しの悪い交差点では、きちんと安全確認しようと思います」と授業の効果を語ってくれた。渡部教諭は、感受性教育は担任の先生方が主体的になつて指導することに意義があると感じている。「クラス単位で担

●感受性教育



五十嵐航介教諭は交差点でのクルマと自転車の出会い頭事故の事例を使って進めた

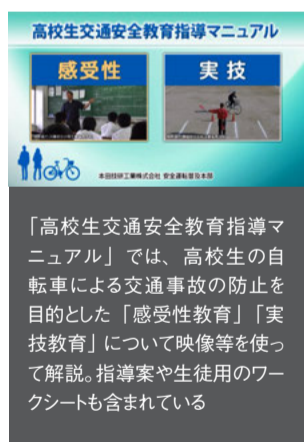


「なぜ事故が起きたのか」など、ワークシートに生徒が自分の考えを記入



班ごとに討議し、それをクラス全体で共有するため、討議の結果を黒板に書き込む

自分がこれまでに遭遇した交通事故やヒヤリ体験を発表し合う



「高校生交通安全教育指導マニュアル」では、高校生の自転車による交通事故の防止を目的とした「感受性教育」「実技教育」について映像等を使って解説。指導案や生徒用のワークシートも含まれている

任の各先生がやることで、私たちの意欲も生徒に伝わりやすいし、先生方も交通安全教育が難しいものではないことがわかるはずで、実践できる先生が増えることよって、学校全体の安全意識も高まっていくでしょう」。感受性教育は一方通行ではなく、生徒に意見を出させるというワークショップ形式となっている。渡部教諭は、こうした授業を経験することで、先生方にも新たな気づきがあり、自分たちの教える技量の向上にも役立つと語っていた。



昨年は校庭で生徒指導部とクラス担任の先生方による自転車の実技教育を実施した

2016 トラフィック・セーフティ・フォーラム in 埼玉

参加無料

テーマ『職場内の安全は、交通・労働・健康のトライアングル』
 日時:2016年11月24日(木)午後1時00分～午後4時30分(予定)
 会場:ソニックシティ 小ホール
 (埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-2 ホール棟 2階/JR 大宮駅西口下車 徒歩3分)
 定員:400名(予約制)
 申込:下記ホームページより参加申込書を印刷の上、FAXにてお申込みください。 <http://www.tec-r.com/>
 締切:2016年11月11日(金) ※定員に達し次第、締切

内容:事例発表/ジョンソン・エンド・ジョンソン(株) 蒲博史氏、(株)本田技術研究所 二輪 R&Dセンター 吉川達也氏
 講演/「睡眠呼吸障害の早期発見・早期治療による安全向上と健康増進」順天堂大学大学院 医学研究科 公衆衛生学講座 谷川武氏
 <お問い合わせ先>
 交通教育センターレインボー埼玉 フォーラム事務局 ※月曜日定休
 TEL:049-297-4111 FAX:049-297-6273

●主催:交通教育センターレインボー埼玉、交通教育センターレインボー和光